



# 討議——三島由紀夫と全共闘

橋川 これは五月十三日にやりました。教室の使用許可です。

木村 一切取ってません。駒場はまた入中で、授業再開になっていないですか。

橋川 この場所、この催しをやるのはかなり大変なところだ。五月十三日、五月十八日、十九日に安田講堂が落ちた後、駒場の方は、それでは全共闘が持つたわけです。安田を境にしてこの建物に閉じこめられた。第八本館のうのうの、周りを田井系が固めて、それを大がかりな機動隊が遠巻きにして、機動隊が遠巻きにして、駒場は反対派の手に落ちてしまった。逆ロックアウトの状態が三月末まで続いて、四月から五月までは授業再開のための準備期間で、全共闘系の間はキャンパスにあたり近寄れない状況で、

## バリケードの明るさ

真理の光がもう一度照らし出される

木村 駒場からその周辺と、この日は田井系及び、このかた、秩序化しようとした人たちが圧倒的だったわけですが、ただ、正門入って左側の方は、かなり強制的に閉じられていた。小松 昔さん、ノンセクトです。七十年代中葉以降、だいたいノンセクトが影響を及ぼして、その影響が、新左翼のセクトの力が強い所では覆われることが多かった。それは覚悟して、その意味ではあえてゲバルトで

木村 それは覚悟して、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

## 全学連と全共闘の違い

近代批判と一元論、大衆社会における社会運動

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで

木村 六九年の後、内ゲバが中心で、その意味ではあえてゲバルトで



# 自然に共有された空間

党派の理論ではなく開かれた現在を生きる

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。

橋川 一 最初に小松さんからこの討論会に集まった人々は突出して来たのかどうかという質問があったので、それについて答えておきたいと思ひます。私の理解では一面は突出して来た「厚」。



★あきた・まさひこ氏は演劇家。東大除籍。1946(昭和21)年生。★きむら・おさむ氏は港区役所勤務。東大卒。1947(昭和22)年生。★こさか・あさり・まこと氏はフランス国立東洋言語文化研究所助教授。パリ第三大学大学院修了。1948(昭和23)年生。★こまつ・よしこ氏は玉川大学助教授。東大大学院博士課程単位取得退学。1955(昭和30)年生。

## 三島由紀夫の倫理観

革命の切っ先にある行為の無償性

橋川 三島は多岐にわたる行動をしたが、全ががったん、当時大衆を動かしてつづいた倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。三島の倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。

橋川 三島は多岐にわたる行動をしたが、全ががったん、当時大衆を動かしてつづいた倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。三島の倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。

橋川 三島は多岐にわたる行動をしたが、全ががったん、当時大衆を動かしてつづいた倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。三島の倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。

橋川 三島は多岐にわたる行動をしたが、全ががったん、当時大衆を動かしてつづいた倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。三島の倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。

橋川 三島は多岐にわたる行動をしたが、全ががったん、当時大衆を動かしてつづいた倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。三島の倫理観は、それが、戦争の切っ先にある行為の無償性。



討議『三島由紀夫と全共闘』

戦後民主主義的欺瞞

六九年段階であった問題意識

小阪 少い小松氏の出した六十年安保と全共闘の連綿に...



小阪 修平氏

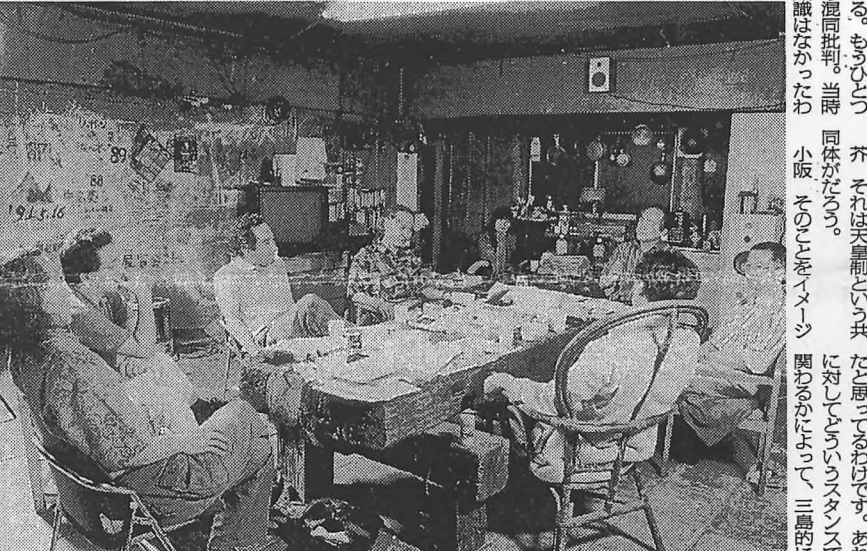
小阪 その意識は当時からあったんです。木村、その意識は当時からあったんです。



木村 修氏

木村 修氏 小阪、その意識は当時からあったんです。木村、その意識は当時からあったんです。

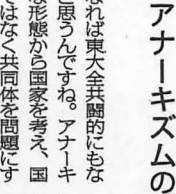
十月一日号でお送りした「三島由紀夫と全共闘——討論『三島由紀夫VS東大全共闘』から三十年 主要メンバーが初の討議」の後編を掲載する。出席者は当時の主要メンバーである芥正彦、木村修、小阪修平氏、客席で傍聴した橋爪大三郎氏。聞き手は浅利誠、小松美彦の両氏にお願した。(編集部)



だが三島さんが何を言ったか、死ななから読み返して...

三島と共有したもの

アナキズムの可能性の形態



浅利 誠氏

浅利 誠氏 三島と共有したものは、アナキズムの可能性の形態...

三島と共有したものは、アナキズムの可能性の形態... 浅利 誠氏

橋爪 三島を倒したての頃は、大抵どうもこの三島を倒したての頃は、大抵どうもこの三島を倒したての頃は...



芥正彦氏

三島が何を言っても、三島が何を言っても、三島が何を言っても...

三島が何を言っても、三島が何を言っても、三島が何を言っても...

芸術至上主義者の叫び

我々はなぜ天皇と言わなかったか



橋爪大三郎氏

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...



小松美彦氏

空虚の絶対化と豊饒と シンボルとしての人間天皇の概念

三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

橋爪 三島が何を言っても、三島が何を言っても...

(編集者) 〆